

平成30年度 大阪府立大学 授業公開講座(前期) 全15回(予定)

番号	講座名	講師	曜日	コマ	開講日	定員
1	公衆衛生学Ⅰ	星 英之	月	1	4月 9日	20
2	中国古典語Ⅰ	大平 桂一	月	2	4月 9日	5
3	中国の思想	大形 徹	月	3	4月 9日	5
4	医療福祉論	山中 京子	月	3	4月 9日	10
5	★ジェンダーとヨーロッパ文化	村田 京子	月	4	4月 9日	5
6	陸域環境再生学	中山 祐一郎	火	1	4月10日	10
7	ドイツ語中級CⅠ(読解)	兼田 博	火	3	4月10日	5
8	心の病理学(精神疾患とその治療)	総田 純次	火	3	4月10日	5
9	教育福祉学への招待	嵯峨 嘉子	火	4	4月10日	10
10	家族社会学	田間 泰子	火	5	4月10日	5
11	教育の思想と歴史	森岡 次郎	水	3	4月11日	5
12	公的扶助論	嵯峨 嘉子	金	1	4月13日	5
13	環境生物学	中山 祐一郎	金	2	4月13日	10
14	地域福祉論 A	小野 達也	金	3	4月13日	10
15	植物工場科学	和田 光生	8月8日(水)~10日(金) 1~5コマ		10	

■ 授業時間 1コマ 9:00~10:30 2コマ 10:40~12:10 3コマ 12:55~14:25
4コマ 14:35~16:05 5コマ 16:15~17:45

対象 どなたでも(全期間を通じて受講できる方) ★は受講条件あり(中面参照)

受講料 1講座 5,000円 (受講料については返金いたしかねますのでご了承ください。)

会場 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス 各教室
※車両での来学はご遠慮いただいておりますので、公共交通機関をご利用ください。



○南海高野線「白鷺駅」下車
南西へ約0.5km
○南海高野線「中百舌鳥駅」下車
南東へ約1.0km
○地下鉄御堂筋線「なかもず駅」
5号出口から南東へ約1.0km
←交通アクセス・マップ



申込方法 「Eメール」又は「ハガキ」に、①ご希望の講座名(2講座まで)、②氏名(ふりがな)、③年齢、④郵便番号・住所、⑤電話番号、⑥このチラシの入手先、をご記入の上、3月1日(木)【必着】までに、下記宛先へ。

※申込者多数の場合は抽選にて受講者を決定します(結果については全員に通知します)。
※抽選結果は、3月16日(金)までに発送予定です。
※お申込は、お一人様2講座まで可能です。

申込先 E-mail jkz30@ao.osakafu-u.ac.jp(半角英数) ※携帯メール不可

ハガキ 〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1
大阪府立大学 C5棟 地域連携室「授業公開講座」係

問合せ先 TEL:072-254-9942 (地域連携室)



平成30年度
前期
4月~8月

授業公開講座

10回以上受講された方には、
修了証を交付(希望者のみ)



この公開講座は、一部の授業科目を
一般の皆様へ公開し、学生とともに
受講していただく講座です。

※ 講義概要については、中面をご覧ください。

1 公衆衛生学 I

星 英之 准教授

月¹

公衆衛生学 I では、ヒトが健康であるために必要な疾病予防に関する全般的な知識について学びます。その中でも特に、健康に関する概念、環境と健康、疫学手法、主要な疾病の動向とその実践的な対策、さらに高齢者、母子など領域別の保健対策に関する基礎的な考え方を身に付けることを目標とします。

(注) 昨年度とほぼ同じ内容の講義です。

現代システム科学域

7 ドイツ語中級 C I (読解)

兼田 博 教授

火³

アレクサンダー・フォン・フンボルト(1769-1859)は19世紀前半に活躍したドイツの博物学者で、地理学の始祖とも呼ばれる人です。彼は南アメリカを広く旅行し、フンボルト海流やフンボルトペンギンにその名を残しました。今回取りあげる「自然の見方 (Ansichten der Natur)」も南アメリカをテーマにしています。希代の文人と言われベルリン大学を創設したヴィルヘルム・フォン・フンボルトを兄に持つだけあって、その文章の格調は高く、ドイツ語散文の規範とまで言われています。この講座ではドイツ語の知識をたよりとして一語一語かみしめて読みすすめます。原則として独検3級程度の知識が必要です。中級 C I (前期) では序文から開始し、中級 C II (後期) では前期の続きを読みます。なお、テキストはレクラム文庫版を使う予定です。1000円程度のテキスト料が必要です。事前購入の必要はありません。

高等教育推進機構

授業時間

1 コマ	9:00 ~ 10:30
2 コマ	10:40 ~ 12:10
3 コマ	12:55 ~ 14:25
4 コマ	14:35 ~ 16:05
5 コマ	16:15 ~ 17:45

集中講義 (No.15「植物工場科学」)は、夏季休業時に集中して開講します。

2 中国古典語 I

大平 桂一 教授

月²

中国の古典を中国語で音読し、味わいます。授業の初期に中国語の発音、文法を温習します。発音は私が作成した教材、文法は小川環樹先生、西田太一郎先生の『漢文入門』の枠組みを借りた教材を使います。中国語未修者も歓迎いたします。読む内容は、『史記』、『三国志』、『世説新語』、『資治通鑑』、『説文解字』、柳宗元の山水記、議論文、仏典などです。慣れ親しんだ漢文訓読と現代中国語による直読を併用します。現代中国語による直読は皆さんを作者の心理により近づけるものと確信しています。奮ってご参加ください。

高等教育推進機構

8 心の病理学 (精神疾患とその治療)

総田 純次 教授

火³

昨今、メンタルヘルスの重要性が強調されるようになり、保健所を中心としたうつ病や自殺予防対策、企業などでの管理の強化などの政策が施行されています。本講義では、将来臨床心理学を専攻する学生のみならず、比較的広い層を対象に、いわゆる「心の病気」について概説します。取り上げる予定は、認知症やせん妄といった高齢者に多い精神障害、統合失調症やうつ病という従来精神医学の主要な対象であった精神障害、20世紀の終わりごろからクローズアップされてきたパーソナリティ障害、精神分析の主なフィールドであった神経症、ベトナム戦争を契機に注目を浴びようになった心的外傷性障害などです。それぞれの精神障害について視聴覚資料も用いつつ病像や精神医学の一般的な知見を紹介したあと、講義者の専門領域である精神病理学や精神分析の立場からその心理学的メカニズムにも光を当てたいと思います。

現代システム科学域

13 環境生物学

中山 祐一郎 准教授

金²

人間の生命や生活を支える生物多様性の意義や重要性を理解するために必要な生物学の基礎を習得することを目標に、生物の進化と絶滅の歴史を軸にして、生物の系統、構造、代謝、生殖、遺伝、生物と環境との相互作用について講義します。また、各回のテーマと関連する話題(食品のリスク、廃棄物・汚水の処理、病気、寿命、毒物、iPS細胞と再生医療、外来生物など)を通して、身の回りの問題を理解する上で生物学の知識や科学的な思考が重要であることを説明します。

現代システム科学域

3 中国の思想

大形 徹 教授

月³

長い歴史をもつ中国では数多くの思想が生みだされ、日本人にも大きな影響を与えています。孔子や孟子の儒家、老子や荘子の道家、墨子の墨家、韓非子の法家などの思想はとも興味深いものです。同時に中国人の人々が知らず知らずのうちに形成していった、いわば中国人全体の思想ともいえる死生観や魂魄概念(魂魄はどこにあるのか、魂の語源、肉体をぬけだす魂と髪型との関係、坐忘、体内に入りこむ悪霊、侵入する鬼霊、疾病観と魂、悪霊をはらう方法)などについても考察します。これらもまた日本人の生活や考え方に大きな影響を与えているのです。

高等教育推進機構

9 教育福祉学への招待

嵯峨 嘉子 准教授

火⁴

この授業は、教育福祉学類が取り組んでいる教育内容について、その基本的視座と概要を学んでいただくものです。教育福祉学類は、人々の尊厳を尊重し、人を中心とした生涯の発達支援・生活支援を行う力を育成しようとしています。この教育目的の達成には、さまざまな専門的立場の相互理解や協働が不可欠です。そこで、授業では学類教員がオムニバス形式で、それぞれの専門的立場から支援の必要性について講義します。テキストとして『教育福祉学への招待』(山野則子・吉田敦彦編、せせらぎ出版、2012年)を配布し、それを参照しながら授業を進めます。受講生は、テキストを授業の前後に読み、テキスト各章末と授業で示された参考文献を、各自でさらに読み進めることで理解を深めていただきます。

地域保健学域 (教育福祉学類)

4 医療福祉論

山中 京子 教授

月³

病気は人に身体的な苦痛や症状を与えるだけでなく、その人の心理状態、自己認識、家族関係、社会生活、将来の夢などにも影響を及ぼす包括的な経験です。それらをアーサー・クラインマンは「病いの経験」と呼んでいます。本講義では、まず、この「病いの経験」を時間的な流れに沿って多角的に検討します。その上で、それらの経験をしている人にとっての周囲からの支援の意味について考えます。また、周囲からの支援として、家族や友人などからのインフォーマルな関係における支援と専門職や同じ当事者などからのフォーマルな関係における支援を比較して検討します。特に、学期の中盤からは、ソーシャルワーカーの支援に焦点づけ、いろいろな種類の病院におけるソーシャルワーカーの具体的な活動と役割を考察します。

地域保健学域 (教育福祉学類)

10 家族社会学

田間 泰子 教授

火⁵

今、家族は大きく変化しています。この授業では、(1) 私たちのライフコースが家族とどのように関わるか、(2) 戦後日本における社会と家族はどのように変化したか、(3) これからの家族と社会はどのようにあるべきか、を学びます。テキスト(※)内容を解説する授業と、受講生が課題について意見を出し合う授業を1セットとして進めます。受講生は、テキストを購入し、予習としてテキストを読んでおくことが必要です。授業後にはテキストを読み直し、理解をより深めてから、出された課題について調べたり意見をまとめるなど、課題に取り組んでいただく必要があります。※『問いからはじめる家族社会学—多様化する家族の包摂にむけて』(岩間暁子・大和礼子・田間泰子著、有斐閣、2015年)

地域保健学域 (教育福祉学類)

14 地域福祉論 A

小野 達也 教授

金³

地域福祉論 A の教育目標は、地域福祉の必要性や概念を理解することです。2000年以降、地域福祉は主流化したと言われてはいますが、その意味を考えます。講義の構成は3つに分かれています。はじめに、なぜ地域福祉が必要なのかを考察します。そのためには、現在の生活の仕組みやいかに社会福祉の対象が発生するかを学びます。次に、全体としての地域福祉を構築していくための枠組み、構成要件を考えます。最後に地域福祉に関する様々な考え方について検討します。地域福祉は、一部の人のためにあるのではなく、地域に住むすべての人に関わるもの、というのが基本的な姿勢です。

地域保健学域 (教育福祉学類)

5 ジェンダーとヨーロッパ文化

村田 京子 教授

月⁴

本講座では、おとぎ話(ペロウ童話、グリム童話)をジェンダーの視点から読み解いていきたいと思います。ディズニー映画でもおなじみの「シンデレラ」「眠れる森の美女」「赤頭巾」「白雪姫」などは、もともとは農民たちが夜、炉端で仕事をしながら代々伝えてきた口承民話でありました。それが時代とともに内容が変化し、文字になって物語として読まれてきました。おとぎ話の女主人公はそれぞれの時代、社会において理想とする「女らしさ」を体現しており、それがどのようなものであったのか、そして女性像がどのように変化していくのかを、おとぎ話の歴史の変容を通して見ていきたいと思います。(注)平成29年度に受講された方は、ほぼ同じ内容の講義となるため、お申込みはご遠慮ください。

高等教育推進機構

11 教育の思想と歴史

森岡 次郎 准教授

水³

この講義では、教育という事象について、歴史的、哲学的観点から考察を行います。ここでのポイントは、現代の私たちが持つ「学校」や「教育」という狭義のイメージにとらわれないことです。教育思想史を概観し、教育哲学における議論の枠組みについて確認しつつ、現代的な教育課題や教育実践についても深めていきます。講義の全体を通じて、人間にとって教育とは何か、教育とはどのような営みか、という大きな問いについて考え続けてください。授業では講義形式のみならず、ディスカッション、グループワークなども数多く行う予定です。受講生には、受動的に講義を聞くだけでなく、積極的な授業への参加を求めます。

地域保健学域 (教育福祉学類)

6 陸域環境再生学

中山 祐一郎 准教授

火¹

人と自然環境とが共生し、持続可能な環境形成を実現化させるための環境再生について、とくに損なわれた自然を回復させることを目的とした自然再生事業を中心にすえ、自然再生に関わる基礎理論を習得させ、自然再生事業の実際と問題点を理解させることを目標にしています。具体的には、自然再生事業の必要性、絶滅危惧種と侵略的外来種、自然再生事業の指針(自然再生事業の対象、基本認識、原則、順応的管理、合意形成)、自然再生推進法について講義します。さらに、森林の再生、高山生態系の復元、河川・湖沼の再生、農業生態系の修復、里地里山の現状と再生、公園緑地の意義と計画、獣害と管理、健全な都市生活を営むための都市環境づくりについて、具体的な事例を紹介しながら説明します。

現代システム科学域

12 公的扶助論

嵯峨 嘉子 准教授

金¹

本講義は、社会保障制度の最後のセーフティ・ネットとよばれる生活保護制度の役割と課題について理解を深めることを目的としています。具体的には以下の内容を予定しています。●公的扶助制度の概念、役割 ●公的扶助制度の歴史的展開(日本) ●生活保護制度の基本的な仕組み(目的、基本原理および保護の原則、保護の種類と内容、生活扶助基準額の算定方式、給付の仕組みと手続、被保護者の権利及び義務、不服申し立て、実施体制および財源、等) ●生活保護制度をめぐる近年の政策動向・生活保護制度の諸課題

地域保健学域 (教育福祉学類)

15 植物工場科学

和田 光生 講師

集中

完全人工光型の植物工場を主として、植物工場で植物を栽培する上で必要となる理論と技術について講述し、植物工場技術者として、あるいは応用技術研究者として必要となる知識の修得を目指します。植物工場の概要から始めて、植物生理学に基づいた環境調節法の基礎理論、各種要素技術、栽培技術、環境計測と制御、作業環境と作業負荷、栽培環境最適化法などについて説明します。受講に当たっては、高等学校卒業程度の生物学、物理学、化学および数学について理解できることが必要です。

生命環境科学域